

呉市緑の基本計画検討会議（第1回）摘録

- 1 日時 令和7年11月7日(金) 14時から16時まで
- 2 場所 呉市役所2階 防災会議室
- 3 概要・骨子

14:00

【土木部長挨拶】

皆様こんにちは。呉市土木部長の松川でございます。開会にあたりまして一言ご挨拶させていただきます。

このたびは、呉市緑の基本計画検討会議の委員にご就任いただき誠にありがとうございます。本日の会議の開催にあたりまして、お忙しい中ご出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、これからの呉市は、誰もが住み続けたい、行ってみたいと思う人を惹きつける魅力的なまちになることを目指しております。こうした中で、本日皆様にご検討いただきます呉市緑の基本計画は、日常生活で利用される身近な公園や呉ポートピアパークなどのレクリエーションを楽しむ公園などについて、将来の方向性をとりまとめるもので、安心して住み続けられるまちづくりに大きく寄与するものでございます。また、山地や農地など幅広い緑地についても同様に、今後の在り方を示し、地球環境の保全への貢献など、呉市の豊かな環境を次世代へつないでいくための大切な計画でございます。

皆様におかれましては、それぞれのご立場から忌憚のないご意見をいただき、お力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

14:05

【委員紹介】 省略（資料-1）

14:10

【座長及び副座長の選任】

互選により、座長に 田中 貴宏 委員 を選出
座長の指名により、副座長に 相川 敏郎 委員 を選出
(副座長は本日欠席であるため、事務局より後日確認し次回会議にて報告する。)

14:15

議事(1)から(4)に関して土木総務課から説明（資料-2,3）

※各委員には事前説明済みであるため要点のみ説明

【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

・視点１「緑のまちづくりに関するこれからの取組」及び視点２「公園に関するこれからの取組」について

（意見等）

視点１について、カーボンニュートラルを実現について、木材は、吸収した二酸化炭素を炭素として蓄積することができるため、その木材を利用することが大事な方針だと思う。

近年、熊がまちなかに出ることが問題となっており、呉市でも焼山に熊が出現したことがニュースになったことがあった。熊が増えているのも事実であるが、人が山の手入れをできていないことも要因かと思う。熊の件とあわせ、炭素を吸収する森林を保てるようにするために、間伐などの山の手入れをしっかりとすることが重要ではないか。灰ヶ峰などで山の手入れをする団体もあるので、こういった団体と連携していくことも大事だと思う。

視点２については、暑さ対策が大事だと思う。小学生の子どもと公園へ行くが、暑すぎて夏は昼間に外へ出ないように言わなければいけない状況である。夕方に遊びに行っても暑すぎて親の方が先に音を上げている。日陰や水が出る場所を作ることが大切だと思う。

遊具に関しては、素材を変えるだけでは対応できない暑さになっている。東広島市の道の駅（西条のん太の酒蔵）には、室内に遊具があり、エアコンが効いた中で、木の遊具で遊べるため、子どもも快適に遊ぶことができる。遊び場の確保も必要だが、子どもの安全と健康を考えると、夏に外で遊ぶことは難しいことを前提に考えても良いのではないかと感じる。暑くて遊べないのが現状だと思う。

（意見等）

今年ドイツのミュンヘンに行ったが、政策として林の中に保育園や幼稚園を設置している。公園の中に小屋のような建物があり、そこへ幼稚園児が集まり、公園が園庭のようになって子どもたちが遊んでいる。年長さんはどこにいるのかと聞くと、公園で遊んでいるからどこにいるか分からないと答えられた。日本では考えられないが、公園の特性を遊びながら学んでいるようであった。

施設整備された場所を用意することも１つの手だと思うが、多様な自然環境を作ることでもあるのではないかと思う。広い面積があると良いが、堺川沿いの中央公園などにもっと緑が多くあって、子どもたちが自分自身で、この場所でどのように過ごすことがベストであるかを考えられるような機能を持たせることも考えるべきことではないかと思

う。

このような森の幼稚園などはハイソサエティな人たちが子どもを入園させているようで、おかれた環境について、自分から学び考える行動をとることで、子どもたちの絆が深まるという研究結果が出ているらしい。こういう場所だと、仲良くしておかないと、何かがあった時に困るのだと思う。そういうことを求めて子どもたちを入園させているようである。

自然型の公園・緑地の中で学ぶことが大切であり、それがあつた種のブランドになっていく可能性もある。緑を機能ととらえるよりは、雑然としたものを提案した方が良くもあるのではと感じた。

○田中座長

教育の場として考えると、環境を完全に整備するのではなく、多様な環境を用意することは、公園整備の中ではあまり考えられてこなかったと思う。

(意見等)

呉市の公園でいうと、焼山公園でラジコンができるなど、それぞれの場所でいろいろなことができて面白いと感じている。そういった中で、例えば、凧揚げをしたいとき、どこでできるかが分からない状況にある。口コミで公園の情報を共有することができたり、公園についての情報として、この公園ではどのような遊びができるかといった情報や、遊具はないが落ち葉などを活用した遊びができる、またその遊び方の提案コラムなどがホームページなどで紹介できれば、より公園が集える場所になると思う。

また、ふれあい花壇の制度が資料にもあつたが、この制度について意外と知らない市民が多いと思う。ホームページで調べても、どう利用すればよいか分かりにくい。使い方が分かればふれあい花壇を利用したいと考える市民は多いと思うので、ボランティアセンターで発行している情報誌にふれあい花壇の情報を掲載することも考えられる。

○田中座長

日本特有かもしれないが、使い方を示されないと利用されない傾向にある。

せっかくいろいろな資源があるため、使いこなしてもらうための工夫が必要だと思う。ものを作るところ以外での大切な視点だと思う。

(意見等)

先ほど、森林で子どもたちが遊ぶという話があつたが、どこの土地を使っていくかという現実的な問題がある。公共用地を使うのも1つの案だと思うが、地域森林計画対象民有林が大きな面積を占めているため、民有地で難しいかもしれないが、土地を欲している幼稚園や団体

と、民有地を結びつけることができると、放置されている土地と使いたい人が結ばれていくと思う。

また、山が荒れていることが話題になるが、緑の基本方針の個別目標にある「適切な樹林更新等による緑地の質の向上」が具体的にどういうことかを明確にし、この土地はこういう目的で整備するということや、どういう森が荒れていて、どういう森は適切な管理がされているかを専門家も踏まえて整理し、実証実験などから始めていけばよいと思う。

○田中座長

呉市の中に民有林や使っていない土地はかなりあると思う。使われる仕組みを作ることで今の状況がもっと良くなるという意見だった。

また、一般市民にとって山林の何が良い状況なのかは分からないので、こういう状態を目指そうという共通認識として持つことは大事だと思う。

(意見等)

現在、みよし公園の指定管理に携わっており、この公園では、ボランティアを募って森林整備を実施している。子どもたちが参加するとすごく楽しんで活動してくれている。せら県民公園も同様である。

森林整備をする上でとても良いのは、固有種を残すことだと思う。その土地を見て、どんな生き物や植物がいるかを話し合い、どれを残すかをみんなで決める中で、自然や多様性保全を理解していく。

呉市でもそうしたことができればと思う。すごく面白いが、マダニが多く気を付けなければいけないため、時期を考えながら、対策を考えて実施する必要がある。

○田中座長

どういうものが良いのかを、体験を通して理解を広げていくことは、呉市でもできる方向性だと思う。すでに実施しているところもあると思うが、活動を広げていくことも考えられる。

(意見等)

年間40回ほど自然観察会を行っており、灰ヶ峰公園でも山菜教室や昆虫採取など年に7回程度実施している。自分自身も自然が好きなので、週2回程度は灰ヶ峰公園へ行っている。市内の他の山にも行くが、山が荒れている印象を持っている。樹木が大きく成長しており、展望台から遠くの海は見えるが、街が見えず、眺望を阻害している状況にある。

灰ヶ峰公園はアクセスするための道が狭く、公園の存在を知らない人も多いと感じている。観察会に子どもを連れてきた多くの親御さんは「虫や蜂、クモが嫌い」というが、子どもはすぐに慣れる。昆虫を触る際にも子どもたちは、最初は怖がるけれど、手に乗せてよくよく見る

とかわいいという反応を示す。子どもが森の中で遊ぶ体験をする場として多くの方に来ていただきたいと思っているが、道路が狭いこともネックになっていると思う。

また、近所にあるような小さい公園は呉市内に約340箇所あると聞いたが、私は自宅から2キロ圏内に公園がない地域に住んでいる。3キロ程の距離には、グリーンヒル郷原という大きな公園がある。管理がしっかりしていてきれいではあるが、遊具が壊れている状況もあった。

近くの住宅団地内には複数の公園があるが、草が伸びていたり、老朽化した遊具があったりと維持管理上の課題が見受けられる。中には、広い公園で草もちゃんと刈ってあるが、椅子などがない野原で、遊ぶ方法がわからない公園もあると感じている。

近年特に夏は暑いので、夏以外の期間でどう公園を使ってもらうか、活用するかが課題だと思う。私は芝生の上を裸足で歩くことが好きなので、小さな公園では難しいと思うが、中央公園の広場などに芝生を張り、子どもたちが裸足で遊べるようにするとよいと思う。

小さな公園は、例えば地元の自治会に投げかけて、どう活用したいかを聞くとよいと思う。花を植えたいという声があれば、そうしたことができるようにしてもらえると良い。花を植えると、1人ではできないため、手伝いが必要になり、植えた以上は水やりや草取りも必要になるため、人が集まり、使ってもらえる環境になると思う。地元にいる人たちが使いたいようにできるよう支援してもらえると良いと思う。

私は、呉の中でも美術館通りが好きであるが、歩くと疲れて座りたくなる。今は座ってゆっくりできる場所がないと思う。森から小鳥の声が聞こえ、歩いた後に休めて、コーヒーが飲める場所があると素敵だと思う。

○田中座長

視点1、2の両方について意見をいただき、視点2については、具体的なアイデアをもらえた。座るところがないと歩こうと思わないため、休める場所があるとよいと思う。

(意見等)

ドラえもんの世界では、空き地があって、子どもが自由に使える場所がある。息子は、空き地や公園がつぶされて、カマキリのえさを捕まえられる場所がなくなると、よく怒っている。

先ほど自治会などの地域が公園をどう使いたいかを聞いた方がよいというご意見があったが、あえて草を残して虫が捕まえられるとか、カブトムシを捕まえる仕掛けを自由に設置できる場所があったらいいなと思う。この公園では、自由に虫捕りの仕掛けを設置して良いという場所があれば、子どもたちはいくらでも試行錯誤するし、先ほどの森の幼

稚園のような体験ができると思う。

私は、東広島市にある森の保育園にも携わっているが、この保育園でも、その環境で子どもを育てたいという親御さんが選んで入園しているようである。保育園で何かを体験する環境を作ろうとしたときに、自然地在遠く離れていると園児等の移動が難しいため、保育園の近くで使える場所があるかどうかが重要だと思う。

グリーンヒル郷原の話もあったが、郷原中学校の生徒が環境学習でこの場所を使っているという話を聞いたため、「グリーンヒル郷原に行ったことがあるか」、生徒に対しアンケートをとった。結果としては、6割以上の子どもたちは、授業で訪問する前には行ったことがなかった。校区内の公園で、自然体験ができる良い場所なのに、半数以上が行ったことがないのは、衝撃的な結果だった。使い方が分かっていないのだと思う。

また、そのほかにも、彼らはゲンジホタルを飼育するためにペットショップで餌のカワニナを買っていたらしく、川へ行くとそこにカワニナがたくさん生息していて驚いていた。子どもたちは、校区内の川に生息する生き物のことをホタル以外知らなかった。子どものときから、虫を捕まえても良い、虫捕り用の仕掛けをしてもいい場所を作ることに加えて、虫の捕まえ方講習会など体験させる会が必要なように感じた。

○田中座長

環境がないわけではないが、使いこなすことに課題を感じた。これは呉だけの問題ではなく、日本全体で起きていると感じている。

呉でも、そこに向けたトライができると良いと思う。

(意見等)

公園の利活用について、東京では、複数の公園を一括して指定管理を行っている例がある。

その業者は、公園を1つずつ、どのようなロケーションかを見て、公園の機能を絞って強化することで、場所のニーズに合った公園を作っている。草が生い茂っている公園も、地域の要望の上でこのように整備しているということさえ通れば、そのような管理もあり得ると思う。

先ほどのお話は、まさに、ネイチャーポジティブだと思う。生物多様性に寄り添うというのはミクロな視点だと思う。緑のまちづくりはマクロな視点だが、それをつなげていくことがこの時代の課題だと感じる。それができると、基本計画がある意味で先進的になると感じるし、それができないと、杓子定規な話になる気がする。埋もれている生物多様性の楽しみは、いろんな場所にあり、それを掘り起こしていくと、人が来ない場所に人が来るようになるはずである。そのようにして、呉を楽しい場所にしていけると良いと思う。

公園の機能の話として、私が公共の樹木葬をデザインに携わった際の話である。横浜市にある樹木葬の公園で、そこは、隣に野球場があり、広場で子どもたちが遊んでいる。お墓は嫌がられる場所だからか点在していることが多いと思うが、ここは、その印象を裏返すような場所であった。まちなかの公園の中でも、こうした機能があっても良いと思う。

○田中座長

公園にはいろんな機能があり得る。一つひとつの公園は都市の中にあり、そんなに大きな面積はとれないため、役割分担が必要だと思う。

そのように考えると、先ほどの意見のように、地域の方と話をしながら、全体像をデザインしていくことも必要だと思う。

(意見等)

公園に機能を持たせる話ともつながると思うが、個人的に民俗学が好きで、日本人の特徴として、昔から好奇心旺盛な面があると思っている。

1880 年ごろの本を読むと、「どんなに貧しくても 1 か月旅をしていて、どんなに好奇心旺盛で向上心のある民族なのか」と書いてあった。

自分からこういう公園がほしいという市民は少ないかもしれないが、例えば、ここの公園は芝生の公園にするとか、ここの森林はどんぐりの森の実証実験にする、実がなる森にする、食べられる植物を植える公園にするなど、意欲のある人のアイデアを実現していくための場所にして、地域に提案すると、意外と面白がって愛着をもってくれるかと思う。

人口が減少していく中で、公園をどうするかという提議もあるが、少なくとも今ある公園を減らすべきではないと考えている。

実証実験の場として、楽しい場所にしていけると良い。例えば、竹林にどのような機能があり、どのような管理方法が良いのかなど、実証実験をしたい学者や団体が、あまり使われていないような公園などで、使い方の一つとして地域などに提案していけるとよいと思う。

○田中座長

緑に関するチャレンジができる場を作れるとよいのではないかとというご意見だった。

(意見等)

オブザーバーの立場であるため、行政の立場で感じたことを話す。

今回呉市で緑の基本計画を改定される経緯は、策定から時間が経っていること、また、国土交通省で都市緑地法の改正が昨年行われ、緑地に求められる機能が新たに国からも提示されており、気候変動対策や生物多様性の確保、ウェルビーイングなどを踏まえて、計画を見直していくものであると思う。

広島県内の状況を話すと、緑の基本計画を改定する動きは呉市だけ

であり、非常に先進的に取組んでいるのだろうと県でも評価している。

計画の内容としては、緑地の保全や緑化に関する将来像、目標を掲げている。緑地の分類としては、資料－２の１７ページに記載されているとおり、多様なものがあり、都市公園を始めとして、公共施設の緑地、農業関係などが対象となることから、行政計画の中でも計画の対象の幅が広いものだと認識している。

今まで委員から発言のあったとおり、みなさんが緑地に色々な関わり方をしていて、みなさんの思いが強く表れた意見だと思う。緑地には、色々な施設や土地があり、多様な人に使われているため、ユーザー側がどういう場所を、どのように使っているかを市が思い描きながら整備していく必要があると思う。

ユーザーというのも呉市に住んでいる生徒や学生、お子さんを持っている保護者、高齢者などさまざまな方がいる。呉市も広いため、中心市街地もあれば、島しょ部もある。それ以外にも、市外のユーザーも想定される。このような中で、どういう人がその場所を利用するのかという視点で分析する必要がある。県で緑の基本計画の改定を進めているのは呉市が初めてで、県の立場としてどう助言すべきか悩ましいが、施設の種類の多いことが特徴であるため、そうしたものに配慮してもらいながら進めていけると良いと思う。

○田中座長

緑地は公共空間であり、様々なタイプがあり、色々な人が利用しているため、ユーザーのニーズを解像度高く把握することが必要だと思う。

(意見等)

先ほどのユーザーのニーズという点で私の話をさせていただくと、私は、駄菓子屋（子どもの居場所）を開いて３年目になるが、子どもたちの元気が有り余っており、公園に行きたいけど、ボールがダメとか色々言われるため公園には行かない、学校は先生に怒られるから行かないという声を子どもたちから聞いた。

店の隣が元々は畑で、高齢の所有者が手放したいという話であったので、クラウドファンディングで公園を作ろうと考えた。車道に近かったため、親御さんからは、車からの安全性を確保してほしいとの提案があり、道路側に柵だけ作って、元々あったプレハブ小屋をリフォームしてクーラーをつけた。小さな子どもを連れていても、上の子どもを遊ばせたいという親は、プレハブ小屋で赤ちゃんを見ながら公園で遊ばせている。クラウドファンディングでは、そこまでが限界で、人工芝を敷くことまではできなかった。ただ、人工芝風の雑草が生えてきて、バツがたくさんいて、子どもたちが遊んでいる。

まだ、遊具はなく、公園として完成していないかもしれないが、人と

遊べる広さの場所があれば，子どもたちは何でも遊びに展開できる。寄付された自転車やスライダーでも遊んでいる。近所では自転車に乗せられなかったお子さんが自転車に乗っている。バッタを捕まえたりもしている。また，子どもたちは，ボールが柵を越えないように気を付けて遊んでいる。ユーザーに寄り添うという意味では，あれこれダメと言うより，環境さえあれば，遊んでもらえるのだと感じている。

（意見等）

担い手の話をしようと思ったところ，先ほどまさにそのような話をしてくれた。

東広島市の話にはなるが，日本酒の仕込み水の源である龍王山ではボランティアの力を借りて除間伐などの環境整備をしている。そこには企業のCSRの一環として参加している方もおられ，呉の企業も活動の場所を探して，東広島までバスを手配して来ている。運営側からすると，ずっと来てもらえるとありがたいが，呉でもそうしたことをするのは手だと思う。河川ではアダプト制度があるため，それと同様に企業が公園管理をしたり，ネーミングライツをしたりすれば，企業のアピールにもなる。企業は，予算があるから遊具を設置しよう，芝生を植えよう，ということになる可能性がある。

東広島の森の保育園は，川の草刈りなどの手入れは地域がしている。また，私は，その景観の保全について相談を受けており，地域の人と一緒に取組を進めている。子どもがくるのであれば一緒にやろうという人は多い。子どもが来ることを想定して，学習の場や遊べる場をつくろうというところ，企業側もこういう整備をしたとCSRレポートが書きやすく，取組みやすいと思う。企業ともうまく連携して，このような整備ができると良いと思う。

○田中座長

公共の立場からできることは限られるため，街全体の緑を考えると，民間の力をお借りすることは必要になるかと思う。

（意見等）

江田島市の古鷹山を自然共生サイトに登録しようとしたら，外来種が増えてしまい断念したことがあった。ただ，そうしたものに企業が参入する時代になっている。社会に貢献したいと考えている企業から支援はしてもらえと思う。トイレをきれいにしてほしいという声に対して，「私が」と手を挙げる企業もあるかもしれない。すべて市が担おうとしてもうまくいかないことはみんな分かっているため，企業との連携をうまくしていくことがこれから大切だと思う。

（意見等）

皆さんの意見を共感しながら聞いていた。

視点1について、祖母の家の庭には、キンカンとツツジの木が植えてあり、キンカンにアゲハ蝶が卵を産んで、ツツジの花の蜜を吸って、また卵を産む、という循環があった。緑は植物を指していると思うが、それに付随する生物は単体では存在しえないと思うため、緑を整理するときには、どのように生き物たちが影響しあいながら活動しているかを踏まえて木を植えてはどうか。

音戸の瀬戸にキンカンを植えたら、あの辺りにアゲハ蝶が来てきれいなのではと考えている。今は、ツツジがきれいということが観光的な売りになっているが、それと蝶を合わせてはどうか。木を植えるだけとは違う魅力を感じてもらえると思う。

世羅の花畑や宮島の紅葉はわりと見に行くことが多いが、呉市にはそういうところがないと常々感じている。そういった、四季折々を通じて、花が咲いていて、紅葉がきれいだと感じられて、呉市外から人が来る場所がない。グリーンヒル郷原も紅葉がきれいだと聞くが、あまり知られていない。特にグリーンヒル郷原や野呂山は大きな公園で駐車場もある。観光客と言うと県外の人イメージがあるが、県内の市外の人でも車で来てもらえるような場所があったら、四季折々の呉市のきれいな景色を通じて、呉はいい所だなと思って、住んでいいかなとか遊びに行っていていいかなと思ってもらえると思う。

視点2の公園については、公園と言ってしまうと分かりにくいですが、面積の広さや立地条件によって条件が違ってくると思うので、2～3種類程度に分類して目指す姿を考えていけたらいいのではないかなと思う。

公園の話聞いて、私自身もそうだが、「公園＝子どもの遊ぶ場所」となっているが、その考え方を一度おいて、考えた方が良く思う。呉ポートピアパークがあるが、呉ポートピアランドの時代には行ったことはあるが、パークになってからは行ったことがない。一度検索をしたが、子ども向けの情報しかなくて、ここは私が行く場所じゃないと感じて行っていない。公園の前を通勤で通るが、真っ暗な中で建物がライトアップされており、すごくきれいだった。実際どうかは分からないが、行って私が楽しめるのかな、行ってもいいのかなと考えてしまうことが、もったいないと思う。私だけでなく市外の人と呼ばれるくらい広くてきれいな場所だと思うので、そこをうまく工夫してもらえると良い。もしくは、子どものいる人向けに特化してアピールしていくことでもいいのかなと思う。

○田中座長

植物だけでなく、そこにくる動物や昆虫も含めた全体で、きれいな景色や印象に残る風景を作ること意識するとよいのではないかなという意見だった。

広島大学で教諭をしているが、建物の前にアメリカフウの並木があり紅葉シーズンはキャンパスの外からも人が来る。そう考えると、美しい景観は人を集める力があると思う。

働いている身からしても、そこに行くとなごんだりする。人を集められるくらい魅力のある景色を作れると良い。あとは公園もいろいろあるため、ニーズに合わせてつくるという視点と、知ってもらうことが大事という意見をもらえた。

(意見等)

昨年、堺川沿いの中央公園において、カフェの運営の社会実験を実施した。その終わり間際に、公園でパーティをしたいという依頼を受けた。呉にオープンで楽しめる場所、飲んで笑って楽しめる場所がないため、大人が楽しめる公園というのも利活用の1つのやり方だと思う。

大人がもちろん楽しめて、高齢者も楽しめて、いろんな部分を担う能力がある公園にしていけるとすごく良いと思う。公園は子どもだけのものではない。

○田中座長

いろんな人がくることを考えると、可能性はまだあるが生かし切れていない。パーティなど、この会議でも考えて使いこなすアイデアを提案できると良い。

(意見等)

現状として、情報発信が足りていないと感じた。

土木総務課の公園企画グループでは、この公園ではみんなが知らないけど、こういうことができるという情報を持っているかもしれない。昔は地域のおじいちゃんが教えてくれるコミュニティがあったかもしれないが、最近は減りがちである。

その代わりにデジタルで何とかできないかと思う。WEB上で発信するとか、看板にこの公園でできることを確認できるQRコードとかがあると、簡単にアクセスできてよいと思う。

○田中座長

情報をうまく伝えていくことは大事。デジタルを使うのは大きな柱としてあると思う。

(意見等)

公園の特色マップを最終的につくって、2年スパンでデジタル上でも更新していくことがあっても良いと思う。

○田中座長

使いこなしを後押しするツールとしてあっても良いと思う。

(意見等)

現在、呉市において、蔵本通りと堺川沿いの中央公園（まちなか公共

空間）を人中心の空間に再構築していくという動きがある。

蔵本通りの緑地帯では、鳥や虫が少なかったため、樹木の観察会をしたが、あまりみなさんにうけなかった。子どもたちにセミの捕まえ方を教えることも試みたが、人の集まりが悪かったので現在は実施していない。皆さんに自然を楽しんでもらえるよう、自然観察会だけでなく、いろいろ実験しているため、またそのようなことをこの場所で行いたいと思っている。

アメリカフウという紅葉がきれいな木の話がでた。グリーンヒル郷原もアメリカフウの紅葉はきれいだが、葉っぱが全て落ちるため管理が大変であると感じている。本庄ハイツの団地の街路樹はアメリカフウだが、掃除が大変だからということで紅葉の前に剪定していたこともあった。見るだけならよいが、管理のことも考える必要がある。

海水浴場の砂浜にスナガニという生き物がいるが、倉橋の桂浜にはおらず、蒲刈の恋ヶ浜や県民の浜にもいない。ブルドーザーなどで、人間のいちばんいい形で砂を入れると、砂の粒の形が違うため、そこに生物は棲むことができない。人間にとってはいいが、生物にとってはよくなく、数が減ってしまう。公園もこうすればいいと事業をしても、どのような生き物がくるのかを理解した上で植物を植えてもらえると良い。

○田中座長

管理についてご指摘いただいた。また、緑の中で相手にするのは生き物であるため、分からない中でも対応していかないといけないというのは大変な部分かと思う。

【質疑・意見交換まとめ】

○田中座長

公園に関しては、具体的なデザインや意見をもらえた。芝生がある公園、暑くなっているため日陰が必要という話や、美術館通りや音戸の瀬戸公園、蔵本通りなど個別の公園についても意見がでた。

もう1つは、皆さん共通の意見として、「使いこなし」の話があった。呉にはいろんな資源があるのは認識した上で、それをうまく使いこなせていないのは共通の課題だった。良さや、していいことなどの情報を、デジタルも含めてうまく伝えていくことが、「使いこなし」に向けて大事だという話だった。

また、その「使いこなし」の1つとして、子どもの教育の場に関わる話があった一方で、いろんな人が使えるというのも公共空間のため大切であり、大人や高齢者が使うという視点も大事だという意見だった。

ユーザーの視点を解像度高く把握することは、計画を作る前段階で

必要だと思う。呉にある公園も、同じものをつくるのではなく、場所にあった特徴的なものを作る視点も必要。その中の１つに公園をチャレンジできる場にするという視点も必要だという意見もあった。

担い手づくりも考えていくポイントで、市民や企業など、呉市の緑を作るという観点では、官民連携でつくっていく視点が必要だというお話もいただいた。

活発な意見を出してもらったため、まとめ切れていない部分もあるが、いろいろな視点をもらえたと思う。

15：58

議事（５）に関して土木総務課から説明（資料２）

○田中座長

骨子には本日の意見を踏まえたものが出てくると思う。骨子では、大きな方針に基づいて、具体的な取組や施策体系を合わせて提示してもらえると、今後どういうことを進めていくかが具体的になるため、分かりやすいと思う。事務局でもそういう形で検討してほしい。

15：59

【閉会挨拶】

本日は大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。次回は来年２月ごろを予定しております。日程はまた調整します。

16：00

【閉会】